大津市民病院訪問看護ステーション

訪問看護だより

Vol.12 （2023 年 初夏号）

春になり、新しいメンバーが増えました。
総勢看護師 14 名、事務１名の 15 名になりました。
新しいメンバーとともに、利用者様・ご家族の思いに寄り添い、
自分らしくご自宅で生活できるようにサポートできればと思っています。
よろしくお願いいたします。

今井　元子

昨年 11 月より異動してきました今井元子です。
まだまだ訪問分野は未熟ですが、みなさまの心に届く看護を提供できるように頑張ります。

２ 月より訪問看護に配属になりました、松田有香です。皆様が安心して療養生活を送っていただけるよう、一緒に考えていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

松田　有香

八軒　美由紀

４月から訪問看護ステーションに配属になりました。
継続した医療的ケアや介護が必要な方々が、住み慣れた地域で安心して過ごせるようにサポートしていきたいと考えています。

介護で心が折れそうな時

最初に A さん（60 代男性介護者）を紹介します。A さんの妻（60 代）は徐々に筋力が衰えていく難病で、介護は 10 年以上、全介助が必要になって 3 年になります。デイサービスやショートステイを利用し、在宅時のトイレ介助、おむつ交換、食事介助、吸引、足のマッサージを希望されるとできる限り応えて献身的に介護しておられます。ある日の訪問の際、イライラした様子で「もうどうでもいいですわ。適当にやってください」と投げやりな様子だったため、A さんには休養していただき看護師だけでケアを行いました。
後日の訪問でお話を伺うと、「夜中のトイレ介助でトイレの処理の後、立ち上がらせた時に排便することがあり、最初からやり直さなければならない時は心が折れそうになる。それが何回もなることもある。一生懸命やっても当たり前みたいに言われることもあるし。介護疲れのために親や妻、夫を殺したりするニュースが出ると、早めに相談するよう言うけれど、言ったって本当のところどれだけ大変かなんてわかってもらえない。時々本当に全部終わらせたくなる。」と率直なお気持ちを話してくださいました。
介護している方の抱える悩みや苦労・問題をすぐに解決することは難しいですが、私たち看護師に何でも話していただき、その思いをくみ取り、少しでも問題が解決できて介護ストレスを軽減できればと思って訪問しています。そして、利用者様だけでなく介護している方にも、少しでも元気になっていただけるようサポートしていきたいと考えています。

自分の時間

次に B さん（60 代の男性利用者）からの投稿をご紹介します。

私は昔から物を作るのが好きでした。勤務時間がはっきりしている職業だったので、兵庫県の西宮の山奥に灯油を使って焼成する小さな窯場を開き、20 年ほど陶芸教室のようなものをやっていました。私が定年の日を迎えると 1 年足らずで難病と闘ってきた家内の病状が急変してしまいました。それから 1 年半後には 40 年間住み慣れた伊丹市を離れ、生活の拠点を大津にしました。大津でもガレージの中で土いじりをやろうと思ったとき、気が付きました。「少しせまーい！」陶芸を諦めて道具の整理をしていると、市内の商店街で陶芸教室案内が目に入りました。事情を説明し、自分が使っていた電動ロクロや道具、本を教室に寄付することにしました。その帰り道に「手作りバイオリン」と書かれた看板が目に入りました。「タイミングがバッチリ！」話を伺っただけで私のものづくりの琴線をコチョコチョとくすぐられてしまいました。そして完成したのがこのチェロです。またこの先も、人の話に引っ張られて何かを作っているかもしれません。
次は何に向かって進んでいくのでしょう。

実際に見せていただいたチェロは圧巻でした。B さんのような手先の器用さが欲しいスタッフです。